

# わかった！できた！



令和2年10月19日 No.11

## ○「学力フォローアップ校事業」第4回校内研修を行いました。

令和2年9月29日（火）に第4回目の校内研修がありました。

今回は、4年2組で算数科「割合」の授業を通して、児童が「わかった・できた」を実感できる授業づくりについて、研究協議を行いました。「割合」の学習は、これから算数の学習を進めていく中で、重要な単元です。これまで学習したかけ算、わり算、分数など様々な学習を活用しなければいけないところであり、今後の学習にも大きく影響します。児童がつまずきそうな場面やつまずき方を想定し、手立てを講じることができました。何より、担任の谷口先生の日頃からの学級経営や課題のある児童への手立てがあってこそ、児童一人一人が学習に向かうことができていると感じる授業でした。

### 研究協議（○成果 ●改善点）

#### <導入>

○話し方、友だちの意見に対する反応仕方など、学習規律が確立されていた。

○教師の指示の仕方が的確であったため、児童の活動に迷いがなかった。

○興味関心を引く導入だった。

○課題解決のための既習事項の振り返りができていた。

○問題に出てくるポテトのサイズをSMLサイズから小中大への変更（児童実態に合わせた変更であった。）

●言葉から想像することが難しいので、既習事項の～の～が、を強調する必要があった。

#### <展開>

●ワークションにおいて問題に取り掛かせたらもっと自力解決できたのではないかな。

●誤答を取り上げてよかったのではないかな。

●グループの解決した過程を全体で共有すればよいのではないかな。

●グループトークで解決ができていない場合、一斉指導に戻ることも必要ではないかな。

#### <終末>

●板書に児童の言葉を記入すると子供と創り上げていく授業になるのではないかな。

●適用問題を最後にさせるほうが本時の目当てを達成できているのかどうか分かるのではないかな。



か。

### 指導助言（広島県教育委員会義務教育指導課 濱本 飛鳥 指導主事）

- 学校全体で取り組んでいるのが分かる。全員で授業づくりに取り組んでいる。
  - ぶれることなく、学年や学校で取り組んでいる。
  - 生徒指導3機能を意識した指導がされていた。
  - 児童が変容したのは、どんな手立てがあったからなのか、なにがそうさせたのかを分析する必要がある。
- 「指導と評価の一体化」について
- 学びに向かう力・・・教師が指導したことによって児童がどのように変容したのかで見取る。
  - 粘り強さと自己調整が大切である。このバランスが大切である。不十分な状態がどうなのかを把握して仕組んだ活動の中で、育むものである。
  - うまく行かまかかったとときにどのように取り組んでいるのかを見取る。（自己調整）
  - 対話の意味・・・違う考え方に触れてみる（自己調整となる）
  - どういう姿があればよいのかのイメージをもって取り組む。

### 指導助言（広島県西部教育事務所

小西 宏明 指導主事）

- 3年目の成果の一端をみることができた。
- 授業規律の徹底は、（声・姿勢）主体的な学びの素地となる。
- コロナ禍で少ない授業時間で行き届いた指導である。
- 児童の発表がよく鍛えられている。
- 導入の工夫により、学習意欲が喚起されていた。
- 学年で取り組んでいる様子など、組織として取り組んでいることがうかがえる。
- めあてを児童から吸い上げていたところがよい。
- 要因のつまずきを2学年、3学年に戻って分析されていた。
- 教師の手立てが児童を変容させていた。
  - 例えば・・・ ①問目 関係図の枠はできていたが中の文字はできていなかった。
  - ②問目 中の字まで書けていた。
  - グループトークにより解決の糸口が見えてきていた。
- なにができていたらゴールのなのかが曖昧であった。
- 割合の考え方を定着させたいのであれば、テープ図で考えなければならない。何ができたらよいのかを整理する必要がある。
- 指導と評価の一体化を意識した授業づくりを行ってほしい。
- 課題のある児童が活躍できた授業であった。